

上田仮説サークルニュース		4月例会	2020.04号
編集責任 遠藤 裕		発行2020.5.23	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サングァーテ`ン中野B-G		TEL0269-23-2847 携帯090-1406-9115	
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 中野西高校 TEL0269-22-7611	

4月25(土) Zoomによるオンライン例会



午後3:00~6:00

参加者数10名

資料総ページ 24 ペ

<参加者> 渡辺規夫さん、望月久和さん、高見沢一男さん、柳沢克央さん、北村知子さん、大塚浩文さん、田中浩寿さん、増田伸夫さん、北村秀夫さん、遠藤裕

はじめに 4月例会の参加者は10名。

4月例会は、新型コロナウイルス感染防止のためZoomを利用したオンライン開催となりました。ホストは渡辺則夫さん。渡辺さんが事前の準備を進めていてくれて、参加者はスムーズに会に入ることができました。サークルとしては初めての試みでしたが、参加者の顔を見ながら話すことができ、オンラインでも充実したサークルになることを体験できました。渡辺さんには準備をしていただきありがとうございました。

発表レポートは、柳沢さんから8本(内2本はプレゼン)、渡辺さんから3本(内2本は口頭)の合計11本。望月さんから「新型コロナウイルスをどのように考えるか」という提起もあり、現状の理解と展望を考えるきっかけとなりました。4月ということで自己紹介を兼ね近況を伺う時間もとれました。(資料のページ数は、エンドウの手元で確認できた数です。)

<本の出版>

渡辺規夫さん出版の本の紹介		
『板倉聖宣さん・上廻昭さんに聞く 仮説実験授業の誕生 仮説実験授業成立史資料集1』		新刊
		上田仮説出版

『渡辺規夫講演 科学史研究と仮説実験授業』		上田仮説出版
板倉さんは何のために科学史を研究したのか		
『日本科学史学会シンポジウム 科学史研究と教育』		上田仮説出版

『寛容の思想の成立と発展 第10集 牧衷』		上田仮説出版

柳沢克央さん出版の本の紹介
『竹内三郎 仮説実験授業の将来展望』 信州・ふたつやなぎ書房
－「長谷川帽」と「偏見を抑圧しない組織」－

1. 発表資料

- ① サークルニュース 3月例会 遠藤 裕 (15ペ)
- ① サークルニュース 2月例会 遠藤 裕 (7ペ)
 - ② 2020年読書メモ2・3月号 柳沢克央さん (4ペ)
－歴史的大変革「コロナ・ショック」の時代をどう読解するか－
佐藤優『十五の春』(上・下) (幻冬舎・2018年)
 - ③ 丸山眞男『増補版・現代政治の思想と行動』(未来社)より 柳沢克央さん (2ペ)
 - ④ facebook投稿再録 2020年3月21日(土)朝6:00 柳沢克央さん (1ペ)
 - ⑤ <今月の領域問題7: 中国自治区独立問題> 増田伸夫さん (12ペ)
 - ⑥ <ばねと力>途中経過 北村知子さん (6ペ)
 - ⑦ 浅間のほとり, 千曲のふもと 北村秀夫さん (8ペ)
 - ⑧ 印象に残った授業ベスト3(2019年度) 渡辺規夫さん (1ペ)
 - ⑨ 信濃毎日新聞データベースからの紹介 柳沢克央さん (2ペ)
 - ⑩ 紹介:「金沢ふるさと偉人館」のリーフレット 柳沢克央さん (2ペ)
 - ⑪ 「思想のあり方について」を, 過去・現在・未来へと広げる試み 柳沢克央さん (24ペ)
 - ⑫ 「楽しく勉強したもん勝ち!」 柳沢克央さん (1ペ)
 - ⑬ 高校入試問題に対する批判 柳沢克央さん (1ペ)
 - ⑭ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん (4ペ)

② 本の紹介 『軍事革命(RMA)』 柳沢克央さん (4ペ)

「現代および近未来の学校を考える上で必読の書」の紹介

－クラウゼヴィッツよ, さらば!－
中村好寿 著
『軍事革命(RMA)』
－〈情報〉が戦争を変える－
(中公新書 1601・本体660円・2001年8月刊)

「革命」という言葉が嫌いである。しかし, そんな私が本書を紹介したくなったのには,

それなりの理由がある。著者による文章は明晰を極め、その論理的かつ冷静な筆致は恐ろしいほどである。…いや、これ以上の下手なコメントは不要である。ともかく、本書から引用する、それぞれの節を注意深く読みたい。

…中略…

この本は「軍事理論の最新情報に関する的確かつ手際のいい入門書」であるが、それだけにとどまるとは思えない。この本に書かれていることを学校の組織について類推して考えることは、われわれ関係者にとって極めて大切なことであると直感した。

この本にある国家論については異論がある。情報化が進めば、究極のところ、従来の国家観さえ、いとも簡単に変わってしまいそうだからである。

しかし、あらゆる組織の現代化のための手段として、本書に紹介されている「情報の徹底活用」の方法は見逃せないはずである。具体的にどのようにしたらいいかはこれから類推することとしよう。

ともかく、本書は現代および近未来の学校を考える上で必読の書であると断言できる(かなあ?)。いや、ほんとうに断言できる。

(2001. 9. 22・上田仮説サークル例会用)

③ 「2020年、春の断章」誕生日レポート 柳沢克央さん (3ペ)

仮説実験授業研究会ニュース2020年4・5月号用誕生日レポート。

- ◆過ぎ去りゆく春を詠む
- ◆なんでもないようなことが…
- ◆恋に似たもの
- ◆図書館論とその拡張
- ◆「守株」とグラフ
- ◆「勸酒」
- ◆突如、「ネットピア」構想が実現した3月末の驚き
- ◆「編集委員会ニュース」で「温故知新」
- ◆「頂点」の背景
- ◆『発想法かるた』ノススメ
- ◆どうしようUSBが無くなった!
- ◆『日本経済新聞』ノススメ
- ◆「みなと同じ」でなくてよかった
- ◆「不可視」信ずる, みなで信ずる
- ◆結びに…

④ 「なぜ、いま自ら学ばなければいけないか」という問について 柳沢克央さん（1 ペ）

「なぜ、いま自ら学ばなければいけないか」という問いについて、論理的に思考した例。

○高校生としての学力、体力、社会性等を身につけ、上級の学校に進むことで自己実現、社会貢献をしていくことが必要である。

○上記の手段として、本来、登校して授業を受けたり、クラブ活動等を行うことを通して学力を伸ばすことが基本である。

■社会情勢により、上記が不可能である。

○個々の生徒がバラバラに家で学習する必要がある。

○生徒自身が一人で教科書、問題集等を読解して学ぶことが基本となる。

○不明の点が出れば本来、学校で先生から教わることにより、疑問を解決することが基本である。

■社会情勢により、上記が不可能である。

○ネット環境がある程度整っていれば、学習動画や検索を活用することにより、効率的に学習を進めることができる。

○学習の成果は、本来、先生が作るテストなどで、客観的な視点から確認することが基本である。

■社会情勢により、上記が不可能である。

○生徒自身が時間を区切り、問題集の問題で演習し、自己採点してチェックをし、自らが軌道修正していくことが必要となる。

⑤ 附属中での《もしも原子が見えたなら》感想とコメント 柳沢克央さん

附属中での授業。

限られた時間でのプレゼン。パソコンが使えないと不利。ネット授業に向いているとのこと。

⑥ 比田井天来と世阿弥《二人の上達論に学ぶ》 柳沢克央さん

パワーポイントでの発表。

仮説実験的認識論Zoom研究会 2020年4月12日(日)「世阿弥と比田井天来書道論」(上達編・模倣と創造)で発表。

柳沢さんは「比田井書道論パワポ原稿」をメールで配信してくれていますが、私(エンドウ)は文字化けしてしまい読み取りができませんでした。。

俯瞰とメタン認知の違い、模倣と創造、守・破・離などが話題になりました。

⑦ ファイスブックでのやりとり 渡辺規夫さん (1 ペ)

「原子はふくらむの?」についての渡辺さんと舟橋さんとのイスブックでのやりとり。

渡辺→舟橋

『未来の風』26第5号を読みましたか? 平林浩さんが孫に「原子はふくらむの?」と聞かれて「あたためて体積膨張するのは原子が激しく動くようになるから、原子と原子の隙間が大きくなるからで、原子はふくらまない」と答えています。質問に対する答としてはいいのかとも思いますが、原子の励起状態のことを考えると・・・。

舟橋→渡辺

励起状態で大きくなる、とも言えます。「ふくらむの?」の問いのホントの気持ちかわかりませんが、1原子については、励起もあるので、「Yes、そういうこともある」でしょうね。

「ふくらむか」ということをイメージできた想像力の豊かさを肯定したいですね。膨張に関する文脈で、「ふくらまないのか」と発想したのなら「No」で、おじいさんの回答が順当ですね。

「『未来の風』26第5号」は読んでいません。

渡辺→舟橋

お孫さんの質問で、急に原子の様子がリアルに感じられました。平林さんは「こっちの酸素の原子が米粒くらいで、こっちの酸素の原子がカボチャくらいもあるなんてことになったら、すごくゴチャゴチャした世界になってしまうだろうね。」固体、液体から出る光は連続スペクトル、気体から出る光は輝線スペクトルということは、固体、液体は原子の大きさが同じものが揃っている。高温の気体は、飛び回っている原子、分子の大きさはいろいろということになるのでしょうか。

舟橋→渡辺

いえ、「高温の気体」で、「飛び回っている原子」が、「大きさはいろいろ」というイメージは不適切だと思います。ほとんど全くみな基底状態にあると思います。放電管のなかだとどれくらいなんだろう…

気体レーザーの発振部分だと、例外的に、励起状態の原子分子が多数派になるように、「反転分布」を作っています。反転分布を励起する光はどうやって用意するんだろう?、いまごろその疑問に気づきました。

連続スペクトルを出す固体の原子は大きさがいろいろかと言うと、そんなことはありません。灼熱した金属表面の連続スペクトルは、自由電子の熱運動由来だったのでは。結晶格子を成す原子の大きさは揃っているイメージが適切だと思います。格子間隔は膨張するけど。

⑨ ルクレティウスの原子が存在する根拠 渡辺規夫さん（口頭）

渡辺さんが読んでいる本『すごい物理学講義』についての話。

原子論がもとになってコペルニクス、ガリレオ、ニュートンが活躍。「ルクレティウスの原子」について考えていたのは板倉さんだけではなかった？アインシュタインのブラウン運動などの話題。

⑨ 仮説実験授業成立史の重要資料集の出版 渡辺規夫さん（口頭）

資料集出版の案内。（ガリ本リストから注文可）

この本は仮説実験授業を愛する多くの人に読んでほしいと思います。

『板倉聖宣さん・上廻昭さんに聞く 仮説実験授業の誕生 仮説実験授業成立史資料集1』

資料集の内容

1. 上廻 昭談話 仮説実験授業成立前後のこと
2. 上廻 昭さんのノート 内地留学のとき板倉さんの言ったこと
3. 上廻昭ノートから見る仮説実験授業の成立過程
4. 板倉メモ 上廻昭さんに書きながら説明したときのメモ
5. 板倉聖宣・上廻昭回想談 仮説実験授業提唱の頃
6. 板倉談話「仮説実験授業の成立条件」
7. 理科ノート《ふりこ》初版
8. 上廻 昭メモ

⑩ 高校1年生向け「化学基礎の学び方」のプレゼン 柳沢克央さん

高校1年生に行ったパワーポイントによるプレゼンの紹介、

学び方の3要素 1. 読解 2. 計算 3. 知識

基礎力を向上させる。図書館、新聞、読書、ドリル(タイマー)

大学が求めている学力・・・論理的思考力

⑪ 2020年読書メモ4月号 柳沢克央さん（3ぺ）

柳沢さんが読んだ本のメモ・紹介。

<今月読んだ本>

◆◎◎◎◎著『××××』（ちくま新書・2009 年刊）

「なるほど」と思った部分を引用します。著名人の手になるものです。書名を当ててみて下さい。

*

…ある国の暴力的な政治というのは、暴君やとんでもない官僚のせいばかりではない。その大元は、国民の無知が原因であって、自ら招いたわざわいとも言える。人にけしかけられたり、暗殺を企てるものがあつたり、新法を誤解して一揆を起こすものがあつたりする。強訴を名目として、金持ちの家を襲って酒を飲んで金を盗むものもある。そのやり方は、人間のやることとは思えないほどにひどい。このような社会的に害のある人間を取り扱うのには、釈迦も孔子も名案がないに決まっている。どうしても厳しい政治を行わざるをえないのだ。

だから、人民が暴力的な政治を避けようとするならば、いますぐ学問に志して、自分の才能や人間性を高め、政府と同等の地位にのぼるようにしなければならない。…（以上）

＊

古典というのは、場合によっては「予言の書」として扱うことができる。それほど、人間の物事の考え方というのは不変の部分が多く、したがって普遍性がある。想像力が創造の源となるように同音異義語というのはじつは親和性が強い場合が少なからずあるようだ。

◆藤巻健史著『日本・破綻寸前』（幻冬舎・2020年3月20日刊）（私物）

◆黒川伊保子編著『妻のトリセツ』（講談社＋α新書・2018年）（私物）

◆松岡亮二著『教育格差一階層・地域・学歴』（ちくま新書・2019年刊）（私物）

◆宇野千代著『青山二郎の話・小林秀雄の話』（文春文庫・2019年オリジナル版）（坂城町立）

◎あとがき・つぶやきメモ

○日本経済新聞を毎朝、コンビニで買っている。180円出したからには必要な情報を確実に吸収してやるぞ。だけど無駄な記事は読まされないぞ…との気構えで読んでいる。特に長文の論考は熟読し、将来展望に役立つことができるところが素晴らしい。これは発見であった。「日本経済新聞の長文記事には役立つものがかなりある。しかも、いい記事ほど寿命が長く、真価はあとになってジンワリと浮かび上がってくるらしい」ということが分かった。一大収穫である。

○AI 技術で「無観客試合」を「ヴァーチャル満員御礼試合」にする

- ①AI に過去の相撲中継やプロ野球の試合の光景や音声、カメラワークを学習させる。
- ②無観客試合を撮影する。
- ③合成により、擬似的な臨場感を付加して放映する。
- ④多少のずれや、違和感があっても、観客がいない者よりはずっと良い中継になる。
- ⑤場合によっては、観衆の声だけ、国技館に放送するだけでも、力士たちの士気も上がるというものである。
- ⑥スクリーンに観客の映像を投影するのも良いかも知れない。
- ⑦またとないこの状況を最大限に活用して、革新の材料とする。

以上は、通勤途中のクルマの中で思いついた。新しい通勤方法によってこのアイデアが生み出されたのだから、これも新型コロナウイルスがもたらしたものと考えれば、プラス材料であるとも考えられる。〔以上4月25日（土）昼、脱稿〕

⑫ 講演記録メモ 「縮む社会を幸せにする事業」 柳沢克央さん（4ペ）

「良品計画」会長金井正明氏講演記録メモ。

金井政明氏 株式会社 良品計画 代表取締役会長 1957年生まれ、長野市豊野出身
2018年2月3日（土）13:10～14:08 長野市「TOIGO（長野市生涯学習センター）4F」にて

◆「はじめに」で、柳沢さんは金井氏の印象について「力みはないが、全力で出し惜しみのない、潔い姿勢。ビジネスの基礎としての確固とした「理念」「哲学」がある。こういう人の人格が「無印良品」に反映されているのだな～という印象。」と述べています。

1. 導入
2. 目指す社会・社会のあるべき姿
3. 幅広い活動のに展開例を紹介
4. MUJIというブランドを超えて実現したい社会のあるべき姿

◆まとめ…イノベーションや経営革新などが合い言葉になっていそうな、気鋭の若手経営者たちは、金井氏のこの講演をどう受け止めたのか、興味がある。たぶん、私だったら自分の志の低さにうちひしがれて、しばし呆然とするのみだと思う。経営者でなくて本当によかったと胸をなで下ろす。どんなに小さな会社であっても、自分の手で社会とコミュニケーションして社会の中で毎日毎日、ひたすらたくましくビジネスをすすめている経営者を心から尊敬する気持ちが生まれた。「資本主義のシステムの中でたくましく生きている」のに（から？）、「自己否定・自己破壊と再生の毒にあふれていて、軽々に賛否の判断などは下せないな～」という印象。こんな破壊力を持った講演は初めてだ。多くの点でGREATだった。「経営者になりたい」などと軽々しく思うのは浅はかなのかも。それにしても、社会がこれだけ大きな変革期を迎えているのだから、学校がこの波を被らないはずはない。もしかしたら、あつと言う間に、「MUJIの学校」ができるかも知れないと考えるのは決して不自然なことではあるまい。「道の駅」の空気の「淀み」と学校の空気の「淀み」に共通の匂いを嗅ぎ取るのは、決して難しいことではあるまい。また、改めて「生きる（生きている）意味」を深く深く考えさせられた点でも有意義なり。〔2018年2月5日（月）14:10編了〕

<話題> 新型コロナウイルスをどう考えるか 望月久和さん（口頭）

望月さんの質問に出された意見。

○社会が変わっていく局面。これをきっかけに社会が変わっていくと思っている。第二次世界大戦後、イギリスではチャーチルが落選。教育が変わる。戦争がないときは小国が有利。フィンランドはIT化で教育が一気に変わった。コロナが収束するのに1～2年かかるのではないかと予想している。（渡辺さん）

○日本国憲法の規定している政治と違うものになるのではないかと。（柳沢さん）

あとがき 新型コロナウイルスの全国の感染者数は、だいぶ少なくなってきたようすが、収束にはまだまだ長い時間がかかりそうです。第二波がくる可能性が高く、まだまだ気が抜けない日々です。外に出て周囲の山々を見渡せば、コロナとは無関係に、微妙な緑の濃淡で目を楽しませてくれています。自然の懐の深さを実感します。

職場では、5月の第3週にZoomによる個人面談（1日10人ずつ4日間）とSHR（5/15の1回）を行いました。個人面談は顔を見ながら様子を聞くことができよかったです。SHRは、40人一斉に行うのは少し難しい感じがしました。連絡と出席確認で精一杯。第4週は学年別に分散登校（1日）。（出席番号の前半が午前、後半が午後に登校）第5週は、各学年2日の分散登校。授業や課題確認テストを予定。

どうやらいろいろな制約がありそうですが、6月から授業が再開になりそうです。どのように授業を進めていくか思案しています。（イトウ）

★ 今後の予定 ★

6月27日（土）

7月25日（土）

8月22日（土）